



NPO/
SORUCA
NonProfit Organization/Soft Resources of Urban and Country Association

通信

春
2014

平成26年1月16日
NPOソフトインダストリー研究会
理事長 白石 嘉宏

巻頭言

ダビデ像のパンツ

明けまして、おめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

さて、身近な話ですがほぼ1年前（2013年2月9日東京新聞）のことですので記憶に残っている方も多いと思います。島根県の奥出雲町の町立公園に置かれているミケランジェロのダビンチ像とビーナス像のレプリカについて町議員の中から子供の教育に良くないからダビンチの像にパンツをはかせろ、という要望が出ました。井上町長はこの要望に対して一歩も引きませんでしたがこのことは大変奇怪なこととして外国通信社により世界に配信されました。その反応はいろいろなレベルのものがありますが、率直に言えば、日本人の文化レベルをバカにしたものがほとんどで、笑い話の扱いになってしまいました。

島根県と言うところの風土でしょうか。やはり新聞で報道されましたが、松江市の教育委員会（委員長内藤富夫氏）が漫画の「はだしのゲン」（中沢啓治氏の被爆体験を描いた作品）は過激な描写が多いから小中学生には見せないようにと49校の内39校で図書館の書棚から撤去（閉架）されてしまいました（海外では子供たちに原爆の恐ろしさとは非人道的な行為として読まれています）。

この教育委員会の処置には各方面から多くの批判を受け、結果8月には通常の扱いに戻るようになりました。

どの程度のレベルの人が、どのような立場から、誰に対して、何を判断し処置を決めるのか。これが問題です。

特定秘密保護法案が昨年12月に成立しました。しかしこの法案により秘密を決める人と、それが秘密に当たるかどうかを判断する人は、一つ釜の飯を食べている同じ仲間の人達です。第三者とは言えません。

此処を追及され、政府は目下どのようにするかを検討（この言葉は？）をしていることに成っています。果たして？ 私達は誰の判断の中で暮らすことに成るのでしょうか？ ダビデの像にパンツをはかせろということに成っては大変です。

SORUCA 通信 contents

- ダビデ像のパンツ
- 東京オリンピックと昔のリゾート法
- 暮らしを楽しく
- 彩先進国として



東京オリンピックと昔のリゾート法

2016年のブラジル、リオデジャネイロのオリンピックの次は2020年に開催される東京オリンピックになります。私は50年前の東京オリンピックの時、まだ大学生で時間だけはたっぷりあったので代々木の国立競技場の中でアルバイトをしていました。



当時、競技場の入場券を手に入れるには今のようにインターネットはありませんから、人気のある競技の前売り券を手に入れるには3日前ぐらいから並んでいました。



中にはテントを張って頑張っている人たちもいました。当時の東京はオリンピックに向け、その変貌はすさまじいものでした。



青山通りは（確か両側だったと思うのですが）家が次々と取り壊され、都電が通る横は片側一車線ぐらいしかなかったのが、今の広い道に変わりました。羽田と都心を結ぶ首都高速道路も出来ました。ここをダットサンのP210型、通称「柿の種（テールランプが柿の種のような形）」で出来立ての首都高速道路を走るために何度も乗りました。でも、1963年には日本橋の上に首都高がかぶさってしまいました。戦後しばらく日本橋で暮らしたことがありましたから、焼け跡が多い中で日本橋は立派なもので、橋の飾りを見るたびに素敵なものだと子供ですが思ったものです。それが日本橋の上に首都高がかぶさった時から開発に違和感を持つようになりました。

通称リゾート法（総合保養地域整備法、1988年）の時には経団連のリゾート部会の研究会委員長になりました。此処では多くのメンバー企業が開発行為には関心を持ちましたが管理運営については興味を示しませんでした。私は卑近な例として、皆さん綺麗な女性が居る銀座のクラブとホテルの広いロビーに座っているとどちらが好きですか。と話しかけるのですが、そういうことを繰り返していると疎まれるようになってしまいました。結果、各地で開発行為が行われ立派な施設が出来ましたが、運営が伴わず二束三文で処分されて行きました。



我が国は焦土となった戦争のあとを復興するために、開発・建設が行われ、開発し、造るというノウハウと事業者とそれを取り巻く利権構造だけが立派に整っていきましました。でも管理運営とそのための人材を育てることについてはおろそかにされてきました。

今度のオリンピックでも国立競技場とその周辺の開発については疑義の声が早くも出ています。新しく計画されている国立競技場は失う緑と景観を損なうほどの高さが問題である。加えて隣接する日本青年館が地下2階地上17階建のビルになるという計画だが、緑や景観を大切にすると人々にとっては、日本橋にかかる首都高と五十歩百歩と言え。このほかにもお台場の中でせっかく緑になった海辺の緑を取り除いて競技場にしようという計画もあります。改修・改築を諍ることをせず、これをチャンスと見て開発に走る利権構造は変わりません。もっともらしい口実がつけば後は如何でも良いのでしょう。

似たようなところでは三陸海岸の防波堤もそうです。地震は地面そのものが動くのですからその上にいかなるものを載せても地面が動けばそれまでです。まして景観を損ない、海とのつながりを遮断する15mもの防波堤の必要があるのでしょうか。

同じ工事で潤うなら、阪神淡路大震災で表通りに大きなビルが横倒しになっている、電線が垂れ下がり通りをふさいでいる姿を見た時、皆が災害の時に安全に避難できるよう都市計画を見直し、表通りの高層建築を規制する、電線を地中埋設に替えるなどにし、東京オリンピックに向け安全で美しい文化的な街にしてもらいたいものです。成熟した姿に替える時代になっているのですから。



私は以下の文の通り人は五つの縁を持ちますが、高齢化が進む社会ではだんだんに第五の縁が重みを増すと思っています。

この文は、昨年12月にわが国で初めて「ホビー白書」がメディア開発総研のご尽力により発刊となりましたが、その目次の前にお願いして入れてもらったものです。

ホビー白書は、一般社団法人日本ホビー協会に申し込むと5,000円で入手できます。

以下、ホビー白書の中の一文

「暮らしを楽しむ」

皆さん、気が付いているでしょうか。私たちは今二つの大きな変化の中に居ます。変化の一つはすでに始まっていますが、これから先人口は毎年減ってゆきます。もう一つは長寿社会へと進んでゆきます。

人口の減少は少子高齢化によるものです。1950年当時は子供が一杯いました、そうして上に向かう、歳を重ね高齢になって行くほど人数が少なかったのです。人口構成は富士山のような姿でした。それが今では湖面に映る逆さ富士のように子供が少なく高齢者が多いという姿に向かっています。

時代の流れを振り返ってみると、戦争では多くの町が焼かれ皆は家を無くしました。食べ物もないので田舎に行きました。戦争が終わると復興です。失われた家、家財、衣類など必要なものを作らねばなりません。工場地帯が元気の源でした。作られた品々の流通は都市で行われました。今度は都市の会社に勤めるサラリーマンの時代が来ました。



今はものがあふれています、でも戦後はモノ不足でしたからお洒落をしようとか住まいを綺麗にしようとか思うと自分で補わなければなりませんでした。女性たちの間では手袋やセーターを編む。ブラウスを作るなどが盛んに行われました。作る喜び、贈る喜び、使う喜び。充実した時間と成果が得られました。

必要な物を手に入れる、でも出来ることなら自分の好きな姿にしたい。綺麗にする、豊かにする、幸せを感じるという部分を暮らしの中に取り入れていきます。

仕事が趣味の人は生涯仕事に充実感を感じるでしょう。でも、多くの人は生涯仕事に携わるわけではありません。歳を取ると仕事から離れるようになります。

人は生涯に五つの縁を持ちます。第一の縁は両親からの血縁です、次に第二の縁、地縁を持ちます。そうして学校に通うようになり第三の縁、学縁へ。さらに学校を出ると今度は働くこととなります。第四の縁、仕事縁の世界に入ります。そうしてこの仕事縁からそろそろ去ろうかと言う歳になった時に幾つの縁が自身の周りにあるのでしょうか。

両親が健在かどうか、生まれ育ったところの人達との交流は、学校の縁は、職場での縁はどれくらいの濃度で続いているのか。

こういう縁とは別に地域や年齢を超えて生涯を通してつながる縁があります。それが第五の縁となる「趣味」の縁です。

初めに書いたように、人は減ってゆきます、そういう中で皆さんは長寿を手にするでしょう。それはどれほどの時間になるのでしょうか。

自身が持つ寿命を90歳（やがてそのようになるでしょう）とすると。働くのが20歳から65歳までの45年間、自由に暮らすことが出来るのがそこから90歳までの25年。

単純な計算では週休2日の45年間（2日 x 52週間 x 45年 = 4680日）と週休7日の25年間（365日 x 25年 = 9125日）では仕事を辞めてからの自由な時間はほぼ2倍にもなります。

我が国は世界に先駆けて最も早く少子高齢化社会に向かって行きます。

人が減ればその分食べ物も衣類もすべての需要が減ります。さらに高齢化が進むと若い時よりも活動量は減りますから、食べる物を始めあらゆるものの需要が落ちます。代わりに、時間を手にする人が毎年増え続けます。

国は経済の活性化には雇用を増やすこと、輸出を増やすことに主眼を置いているようです。確かに我が国の貿易収支は赤字になっていますが、経常収支は黒字です。ですから海外からの送金を得られるような政策の方が良いのではないのでしょうか。

彩先進国として。

家の中を見回しても今までのアナログテレビをデジタルテレビに替えましたが、それ以外に欲しいと思う品は特にありません。家の中は物で一杯です。バーゲンをしてくれてもデフレで物の値段が下がっても買い替えるほどの気持ちになるかどうか（値上げは難しいでしょう）。

長寿社会に向かう今、皆が願うのは、充実した日々、幸せを感じる時間です。これからは、そのように感じられる空間、サービス、時間の過ごし方に人々の指向が移ります。産業もその方向に向かって行くでしょう。

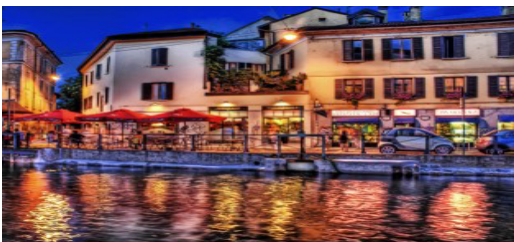
自然が豊かで四季を満喫できる空間、カユイところに手が届くようなサービス、そうして健康で綺麗で楽しい時間で満たされる生き方、それが彩先進国となる人々の暮らしですし、そのような国になれば世界中が日本に憧れ、その暮らしを成り立たせる全体が高齢化が進む次の社会の世界のモデルになるでしょう。

第五縁「ホビー白書・認識の醸成」

元気で綺麗で楽しい、幸せ。それは第五縁「趣味・気の合う人との交流」を皆が広げて行くことです。

今年出す「ホビー白書」はとりあえずのつかみ見本です。ですから今年の白書では当然すべてを網羅していません、整った姿になるにはおそらく数年かかると思いますが、年を重ねるごとに充実した内容になるよう努めます。

少子高齢化社会、それは第五縁に満たされた彩先進国に向かって舵を切る時代になったことを告げている



食文化

昨年末、明るいニュースとして「和食」がユネスコの世界文化遺産に登録されました。これ以前に、フランス料理、地中海料理、メキシコ料理、トルコ料理があり、今回の和食は5番目の登録になります。

毎年1月の最終土曜日、明治神宮で四條司家による新年俎板開きが執り行われます。四條司家は西暦800年代、四條中納言藤原朝臣山陰卿が第五十八代光孝天皇により料理を司る家とされ、その後今日の第四十一代四條隆彦氏まで連綿と1200年続いています。



ご覧になった方もいると思いますが、片手に包丁刀、もう一方の手に俎箸を持ち、手を一切触れることなく調理をします。当時から衛生思想があったのでしょうか。ご興味がある方は「NPO ソフトインダストリー研究会」を検索いただきそのトップページの左側下、リンクのところをクリックしていただくと一番上に四條司家の画面が出ます、それをさらにクリックしていただくと「NPO 四條司家食文化協会」の紹介ページが出てきます。



さて、TPPの交渉が進む中で我が国では米、麦、乳製品、牛豚肉、甘味資源作物の5項目を絶対に譲れない現状維持を唱えて来ています。現在の生産者農協にとっては死活問題だからですが、一方では和食が世界遺産に登録されたことで、和食と言う食文化に載せて日本の食材を輸出しようとしています。入ってくるのはダメ、でも売るのは良いという姿勢は如何なものでしょうか？ カロリーベースでは40%を切っていると言いますが、金額ベースでは日本は世界第5位の農業大国です。

また、現在米作農家の平均年齢は65歳ですから何時までお米を作り続けてくれるか不安です。鹿や猪、熊などが人の住む町にも出て来るようになりました。猟師の平均年齢も米農家と同じです。つまり日本の食糧生産を担ってきてくれた方々はあと数年するとリタイアするでしょう。

食文化は生産の基から見て行くと大地、気候、担い手が居てくれて、その上に加工業者、調理人になっています。食文化の基に不安がある中これからどうなるのでしょうか。整合性のある政策が望まれます。

< 編集後記 >

新春の経済見通しは概ねアベノミックス効果をとらまえ、秋以降の好転を予測している。しかし消費税の増税、相続税の増税、年金の減額等々、個人資産は確実に目減りをしていく。個人が勉強して、より正しい情報を得ようとしても、もうあまりに複雑に関係しており難しい。時代はどれもコミュニティどうしのつながりから生ずるパワーに、引っ張られて行くゆくように感じられる。どのコミュニティに所属するか、いくつのコミュニティに所属するかによって情報は違って来る。コミュニティの品位はひとり一人の生き方で決まる。仲間が大事です。 (渡辺勝範)

SORUCA のホームページの画面です。 <http://sorca.p2.weblife.me/>



「特定非営利活動法人ソフトインダストリー研究会」 広報誌
SORUCA 通信 (2014年春号)

発行責任者 白石 嘉宏
発行所 NPO ソフトインダストリー研究会
東京都新宿区矢来町 47 番地
TEL: 03-3266-1769
FAX: 03-3266-1764

<http://sorca.p2.weblife.me/>
編集人 渡辺 勝範・長谷川 毅
発行日 2014年 1月 16日



発行元 :NPO ソフトインダストリー研究会